

鋳物と鋳物師の研究

1. 鋳物とは

鋳物（いもの）とは、あらかじめ用意した型に溶かした金属を流し込み、もとの型と同じ形につくられたものです。材料には鉄・銅・アルミなどがあり、他の金属を混ぜた合金の鋳物も利用されています。身の回りの電気製品では、炊飯器の釜に鋳物が多く使われています。テレビ番組や雑誌などで紹介される、昭和以前のレトロな台所では、カマドで鋳物の釜や鍋が使われていました。茶の湯で使われる釜、銅製の釣鐘・仏具・花器・鏡、昔の貨幣なども鋳物です。



お寺の鐘の調査風景

3. 鋳物を作った人びと

島根県では盛んだった「たたら製鉄」で生産された鉄の一部が、各地の鋳物師のもとで鋳物の原料となりました。島根県内で主に知られているのは、1533年（天文2）、「鋳物師大工職」を認められた石見地域の山根氏や、1592年（天正20）製作の燈籠が巖倉寺（安来市）に残る、宇波（安来市広瀬町）の加藤氏です。名前が残る両氏に加えて、他にも数多く活動していた鋳物師について、数少ない史料や製作品からその技術と歴史を調査しています。

島根県古代文化センターでは、毎年2本のテーマ研究を期間3年で実施し、終了後は島根県立古代出雲歴史博物館で開催する企画展にその成果を反映させ、公開しています。令和4年度開始のテーマ研究「鋳物と鋳物師の研究」を紹介します。



梅花雪笹文真形釜（島根県立古代出雲歴史博物館所蔵品）

2. お寺の鐘

かつて、こうした鉄製の釜や鍋を製作した人びとは鋳物師（いものじ）と呼ばれ、寺院の鐘のように大きな、注文生産のものも手がけました。鐘の製作には複数の鋳型を組み合わせ、鐘全体の鋳型とし、材料を大きな炉であらかじめ溶かしておくなど大がかりな準備が必要です。できあがった鐘には寺の僧侶や人びとに加えて、時に鋳物師の名前も記されているので貴重です。鐘の調査では表面を細かく観察することで、鋳物を作る技術をより詳しく読み取ることができます。



報鐘（安来市宇波交流センター所蔵）

4. 松江藩の鋳物づくり

鉄の特産地であった江戸時代の出雲地域では、松江藩が釜甌方《ふそうかた》を設置し、そこでは豊富な鉄を原料として鋳物の鍋や釜が生産されました。廃藩置県によって明治時代初めに釜甌方が廃止された後は、その流れをくむ島谷鋳工場と遠所鋳造所が戦後まで操業しました。明治から大正時代にかけて、両者は製品改良や販路拡大により島根県内有数の鋳物生産者に発展しました。製品の一部は山陽地域や大阪府など県外へ販売され、高い評価を受けていました。



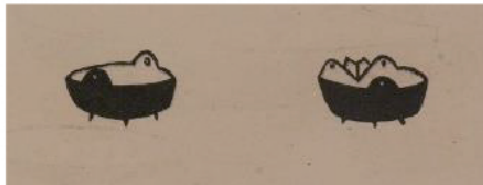
切立形火鉢

福寿形火鉢

新形火鉢（平火鉢）



茶釜



鍋

三	二	二	二	二	百	百	百	百	九	八	七	六	五	大
百	百	百	百	百	八	五	三	〇	十	十	十	十	十	立
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	羽
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚
釜														
四	四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	口
尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	徑
三	二	一		八	七	六	五	四	三	二	一		九	(大毛切)
寸	寸	寸		寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸		寸	三
永														
十	九	八	七	六	五	五	四	四	三	三	二	二	二	量
石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	斗
五	五	五	五	三	五		一	六	二	八	五	二		斗
斗	斗	斗	斗	斗	斗		斗	斗	斗	斗	斗	斗		斗

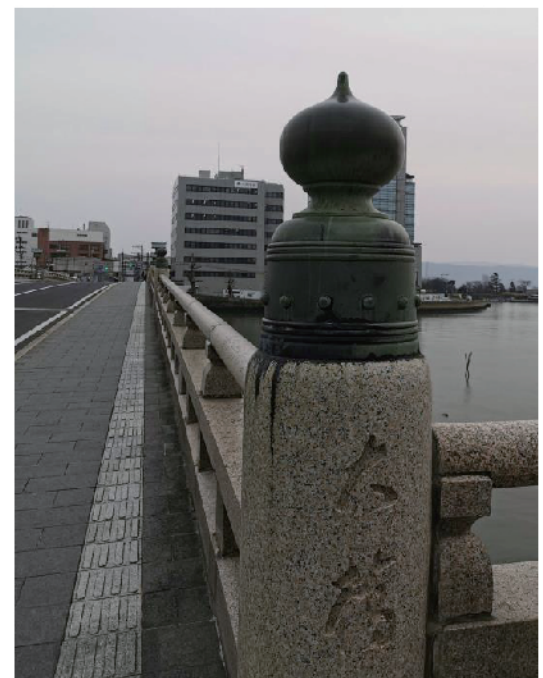
島谷鋳工場製品カタログ（倉吉博物館所蔵）

5. 遠所家の歴史と作品

遠所家は、松江藩の釜甌方の流れをくむ鋳金家です。遠所家の詳しい来歴は不明ですが、同家の古文書に釜甌方の役職任命書などが残っていることから、少なくとも幕末ごろには釜甌方の鋳造に携わっていたようです。その後、1889年（明治22）に松江市乃木で鋳造所を開業します。遠所家は、茶釜や火鉢、花器などの美術鋳物を得意としていました。一方、喚鐘、銅像、橋の擬宝珠など、地域の様々な鋳物も数多く手がけていました。また、荒神谷遺跡出土銅剣の復元にも取り組んでおり、現在、古代出雲歴史博物館で展示されている模鋳品の銅剣はその際のものでした。遠所家の鋳造所は2000年（平成12）に廃業しましたが、現在でも遠所家の作品は街のいたる所で見ることができます。

6. まとめ

島根県の鉄鋳物（せんてつもの）産業は、47都道府県中第3位の生産重量・生産金額を誇っています（2021年時点）。その部材は自動車や船舶・各種機械などの幅広い分野に供給され、私たちの暮らしに役立っています。島根県の鋳物づくりも長い歴史を持ち、特産の鉄から作られた鋳物もやはり、人々の日常生活を支えるものでした。「鋳物と鋳物師の研究」による、鋳物づくりからみた島根の歴史の解明にご期待ください。



松江大橋の擬宝珠（遠所和夫氏製作）